

政務活動 (参加・実施) 報告書

令和 5 年 7 月 19 日

会 派 改革フォーラム

参 加 者 牧 田 俊 之

政務活動先 (目的地)	宮城県(仙台市)・岩手県(盛岡市)・福島県(南相馬市)				
開催団体等					
政務活動期間	令和 5 年 7 月 1 0 日(月)～7 月 1 2 日(水)			3 日間	
政務活動項目 (名称等)	① 仙台港における商品車の輸送について(仙台市仙台港) ② 公共施設アセットマネジメントについて(盛岡市) ③ Park-PFI について(盛岡市) ④ 福島ロボットテストフィールドについて(南相馬市)				
政務活動参加者	牧田俊之	首藤孝治	越川慶一	松井雅宏	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>① 仙台港における商品車の輸送について</p> <p>仙台港では、近郊で生産された車両の船積み 600 台/日と宮城県エリアを中心とするディーラーが受け入れる車両の船揚げ 300 台/日の約 900 台が、港のヤードにおいてシステマテックに荷捌きが行われています。</p> <p>視察させていただいたトヨタ輸送(株)仙台港分室の説明では、県の協力のもと港湾地区に一定のヤード面積を確保し、車両の船積みと船揚げが行えているが、一方では、新車を何台も積んで輸送するキャリアカーという難しい運送の性質上、慢性的な人手不足に陥っている上に、2024 年問題と呼ばれる物流業界の残業時間の削減を目指す働き方改革によって、現在の当地域の車両運搬体制を維持していくには、更なるヤードの確保や港湾の機能強化、そして道路交通法の改正も不可欠だと話されていました。</p> <p>現在、苫小牧港では完成車両の船積みはありませんが、北海道に入ってくる全ての新車が多い日で 600 台/日が西港に荷揚げされております。しかし、港湾地区にヤードがないことから不効率な車両輸送を余儀なくされていることに加えて、前述した物流の 2024 年問題により、業界から再三に渡り港管理組合に要望が提出されております。</p> <p>私たち会派はこの問題に関し、港管理組合議会において数回に渡り議論してきた経緯があり、引き続き取り組むべき課題として大変興味深い視察調査をさせていただいたものと考えています。</p> <p>② 公共施設アセットマネジメントについて</p>				

「公共施設アセットマネジメント」とは、施設、設備を資産として捉え、その損傷・劣化などを将来にわたり予測することや管理運営における費用対効果の詳細に把握しデータ化することなどにより、効果的かつ効率的な維持管理を行うための方法のことをいいます。全国の自治体では高度成長期に建設してきた多くの公共施設が老朽化して建替えや大規模改修が必要になったことにより更新維持費の増大が見込まれ、これに加えて少子高齢化社会の到来で厳しい財政状況となっていることから自治体経営の上での大きな課題となっています。

盛岡市は、組織横断的に抱えている数多くの公共施設の保有数の最適化と長寿命化を図るための「資産管理活用事務局」という専任組織を設置し、一元的に管理するとともに公共施設の定量評価や定性評価を行い、保有最適化・長寿命計画など長期・中期・短期の各種計画を策定しています。また、官民連携のPPPプラットホームの開催や大規模改修の際に取り入れているサウンディング型市場調査などの先進事例をご説明いただきました。

苫小牧市でも平成29年に厳しい財政状況と人口減少を見据えて策定した「苫小牧市公共施設等管理計画」という10年間の計画があり、本計画の検証や次期計画に向けた検討の時期に来ております。

今回、学ばせていただいた先進事例を次期計画策定の議論にしっかり活かしてまいりたいと考えています。

③ 「Park-PFI」について(盛岡市)

「Park-PFI」とは、2017年の都市公園法改正により新設された公募指定管理制度のことを言います。本制度では公園に飲食店や売店などの施設を設置し、その収益を活用して公園の整備を行う公民連携のプロジェクトであり、民間事業者の資金やノウハウを活かした、公園の活性化やにぎわいづくりに大きな期待が寄せられています。盛岡市では厳しい財政状況を背景に、未整備のまま手が付けられていなかった中央公園に「Park-PFI」を採用し、保育園、カフェや食堂、野菜や園芸品の直売所、伝統工芸の体験施設、フリースクールなどを開設し、全国の自治体からも注目されている先進事例となっています。

苫小牧市においても大小の公園が約300か所あり、年間約5.7億円の維持管理経費を擁しています。当市における「Park-PFI」導入の可能性について探ってまいりたいと考えています。




④ 福島ロボットテストフィールドについて(南相馬市)

福島ロボットテストフィールドでは、陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点として、インフラや災害現場など実際の使用環境を再現しており、ロボットの性能評価や操縦訓練等ができる世界に類を見ない施設となっています。

2011年の東日本大震災の津波被害にあった50haの工業団地の中に無人航空エリア、水中・水上ロボットエリア、インフラ点検・災害対応エリア開発基盤(研究棟)エリアが配置され、日本における最先端技術の実証試験が行われています。

苫小牧市においても災害時対応やインフラ点検など大いに役立つ、ドローンやロボットの最先端技術の開発がここで進められていると感じさせていただき視察となりました。この秋には、市内中心部において2カ月間にわたり自動運転バスの実証試験が行われます。また、お隣の千歳市には世界最先端の半導体製造工場が出来るなど、先端技術が私たちの暮らしにも身近になってきており、

	<p>これらの最先端技術を活かしたまちづくりの可能性の高まりを感じる視察調査となりました。</p>	
	<p>資料名（会派保管）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ輸送㈱仙台港分室の概要 ・盛岡市公共施設アセットマネジメントの推進について ・福島ロボットテストフィールドについて等

<p>会派内回覧</p>								
--------------	---	---	---	---	--	--	--	--